

日本学術会議地球惑星科学委員会・IUGG 分科会

IAMAS 小委員会

(第24期・第3回) 議事録

1. 日時：2019年5月16日(木) 12:00-13:30
2. 会場：国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟会議室 404号室
3. 出席者：中村尚[委員長]、浮田甚郎[幹事；議事録]、中島映至、近藤豊、
塩谷雅人、高薮縁、佐藤薫、江守正多、松本淳各委員(計9名)
欠席：三好建正[幹事]、鬼頭昭雄各委員
4. 配布資料
資料1 IAMAS 小委員会 24期第1回議事録
資料2 IAMAS・IUGGに関する最新情報
資料3 IAMAS-InfoEmail_Feb2019(top page)
資料4 IUGG e-journal(May2019_p1-6)
資料5 JpGU2019 IUGG百周年ユニオンセッションU06
資料6 地球観測将来構想小委員会

5. 議事

- [1] 第24期第2回会合の議事録(資料1)を確認した。
- [2] 最新の国内外情勢に関する情報交換

中村委員長、中島委員から資料2、3を用いて

i) 2019年7月8日~18日にモンリオールで開催される IUGG General Assembly の発表要旨投稿状況の説明があり、投稿総数約5000件のうち IAMAS 登録者が全体の約20%に達したこと、25件の IAMAS シンポジウム、10件の IAMAS 主導 inter-association 合同シンポジウム、23件の IAMAS が関連する合同シンポジウムがあること、IUGG 総会において IAMAS ビューローの改選が行われる予定であること、次回の IAMAS-IAPSO-IACS 合同総会が MOCA2021 として 2021年7月18~23日に釜山で開催されることなどが確認された。

中村委員長から資料4,5を用いて

ii) IUGG が設立100周年を迎えたこと、地球惑星科学連合2019年総会(5月30日)

において IUGG100 周年記念イベントとして「100 周年を迎える IUGG への日本の貢献」ユニオンセッションを開催すること、またそのプログラムが紹介された。

中村委員長、高菽委員から資料 6 を用いて

iii) 第 23 期に日本学術会議から発出された提言「我が国の地球衛星観測のあり方について」のフォローアップと、有効で持続可能な地球観測衛星の将来構想の提示を行う目的で、地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会のもとに地球観測将来構想小委員会が 2019 年 6 月に設置されることが報告され、地球観測衛星の将来構想について情報交換を行った。

[3] その他

その後は日本気象学会学術委員会と合同で、航空機観測、放射能汚染に関する対策、地球衛星観測、データ利用に関してそれぞれ情報交換、討議を行った。

「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」を日本学術会議マスタープラン 2020 に日本気象学会、日本大気化学会、日本航空宇宙学会と共同提案したこと（2019 年 3 月 29 日）、地球惑星科学委員会でのヒアリングが 2019 年 5 月 27 日に予定されていること、地球惑星科学連合 2019 年総会（2019 年 5 月 28）において航空機観測セッションを日本気象学会の後援で開催予定であること、また同日に航空機観測に関する推進委員会を開催する予定であることなどが報告された。

放射能汚染に関する対策、特に原子力防災についての数値モデルの比較やガイドラインについて気象研究ノートを執筆予定であることなどが報告され、また科学的情報をどのように正確に社会に発信するかについて意見交換を行った。

データ利用に関して、現在のオープンサイエンス化に対応するために気象庁と研究者コミュニティとの共同研究を目的として気象研究コンソーシアムを立ち上げること、データアーカイブについて気象学会の中に設置されたデータ部会において議論されていることなど情報交換を行った。